

気候変動の影響を受ける サケマスたち

今どうなっているの？

みなさんは、秋に川でサケをご覧になれたでしょうか？
札幌市内を流れる豊平川に遡上したサケは、ごくわずかでした。
日本のサケが少なくなってしまったのは、気候変動による海の環境が大きく変わったことが影響している可能性が指摘されています。産卵のために川に戻ってくるサケ、カラフトマス、サクラマスはどれくらい減ってしまったのでしょうか？岩手、知床、札幌の川で行われたモニタリング調査からその現状を紹介し、サケの未来について考えます。
あわせて、水辺の生き物をテーマに小学生から高校生までのポスター発表、市民参加型調査「みんなでサケさがそ！」の結果とフォトコンテスト表彰をおこないます。

申込必要

入場無料

2026年
1月31日(土)
時間: 開場12:30 13:30~16:30

場所: NHK札幌放送局8K公開スタジオとエントランスホール 札幌市中央区北1条西9丁目1-5

【アクセス】地下鉄東西線「西11丁目駅」より徒歩約5分 ※会場に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

申込先: NHK北海道ホームページから**事前にお申し込みください**
着席参加の申し込みは先着順 <https://www.nhk.or.jp/hokkaido/>

主催 札幌ワイルドサーモンプロジェクト・札幌市豊平川さけ科学館・NHK札幌放送局

協力 一般社団法人 応用生態工学会札幌

後援 北海道、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部、札幌市、
国立研究開発水産研究・教育機構 水産資源研究所、東京大学大気海洋研究所、

デザイン: 163工房 田中宏美

お問い合わせ【申込について】NHK札幌放送局: 電話011-232-4040(平日午前10時~午後6時)

合わせ【イベント内容について】札幌市豊平川さけ科学館: 電話011-582-7555(午前9時15分~午後4時45分)



申込み専用QRコード

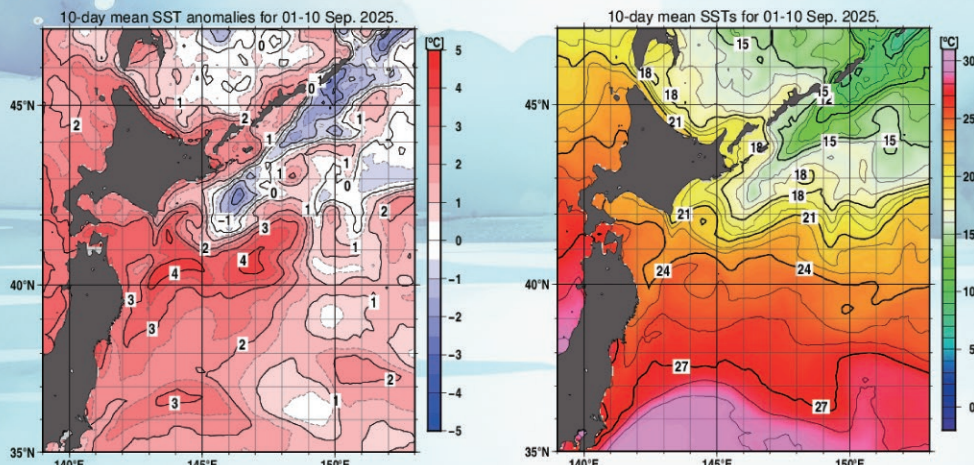


13:30	はじまりのあいさつ SWSP の紹介・趣旨説明 森田 健太郎 (SWSP/ 東京大学大気海洋研究所)
13:35	【講演】「本州・三陸サケの今」 峰岸 有紀 (SWSP/ 東京大学大気海洋研究所) 「知床の森と海をつなぐカラフトマスの今」 野別 貴博 (公益財団法人知床財団) 「札幌のサケとサクラマスの今」 有賀 望 (SWSP/ 札幌市豊平川さけ科学館)
	【パネルディスカッション】 ■進行 荒木 仁志 (SWSP/ 北海道大学)
14:50	【ポスター発表】■小学生・中学生・高校生による研究成果 / SWSP 活動報告 ●札幌工業高等学校 ●札幌旭丘高等学校 ●札幌光星中学校 ●札幌市立北光小学校
16:00	市民調査「みんなでサケさがそ！」 結果発表とフォトコンテスト優秀作品表彰式 審査委員長: 向井 徹 (SWSP)
16:30	おわりのあいさつ 岡本 康寿 (SWSP/ 公益財団法人札幌市公園緑化協会)



海面水温の変化

2025年9月上旬の海の水温を見ると、北海道周辺では平年より4℃以上も上昇したところがあり、東北沿岸の海の水温が、サケの致死水温と言われる24℃を超えていました。サケが回遊する海の水温が高くなることによって、日本に戻ってくる時期が遅れたり、卵の発達に異常が出たりすることが報告されています。



2025年9月上旬の平均海面水温の平年差(左図)および平均海面水温(右図)
 出典: 気象庁HP https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/jun/sst_HQ.html

豊平川のサケモニタリング調査

豊平川には毎年1,000~2,000尾のサケが遡上し、自然産卵していますが、2025年度は例年の1/5程度でした。(図1)

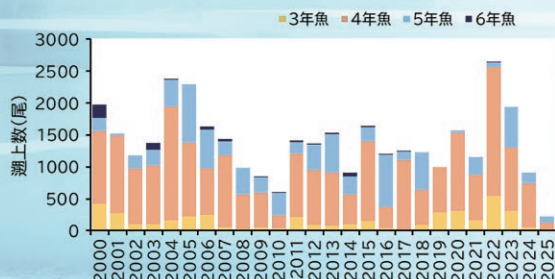


図1 年度ごとの遡上数

豊平川生まれの野生魚を増やすために、2016~2024年度は平均1,000尾以上が遡上する年は放流数を減らす順応的管理を行い、放流数を減らしても遡上数の減少が見られなかったため2025年の春に放流され2024年生まれの稚魚は、市民が

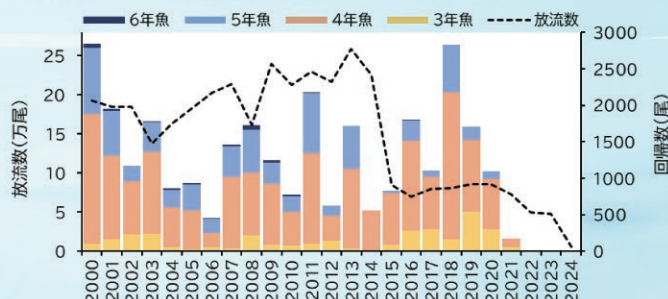


図2 生まれ年(年級)ごとの放流数と回帰数
 ※2022年以降に生まれたサケはまだ回帰していない

体験する放流のみとなりました。(図2)



<https://www.sapporo-wild-salmon-project.com/>

札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)について

SWSPは、札幌市豊平川さけ科学館職員をはじめ、研究者・河川整備や環境保全に関わる行政機関・建設コンサルタント・マスメディア関係者・デザイナーや漫画家・SWSPを応援する企業など約50名(2026年1月現在)で構成されており、多様な人々の連携によって活動しています。

